

本 賞

KUROBEアクアフェアリーズ

1998年3月に2年後の「2000年とやま国体」6人制バレーボール競技の強化チームとして黒部市に誕生したKUROBEアクアフェアリーズ。国体を終えた後も活動を存続し、現在はV・チャレンジリーグIに所属し創部18年目を迎えました。チームは地域・企業・ファンからの支援により運営されており、地域密着型のクラブチームとして身近に存在し、地域に根ざした活動を展開しています。富山県のトップアスリートとして競技活動はもとより、社会奉仕活動や地域イベントに積極的に参加し、バレーボールを通して地域の活力・活性化を目指し活動しております。県内各地で行われるバレーボール教室ではアクアフェアリーズの選手から直接指導を受けることにより子供たちに夢や目標や希望を与え、またママさんバレーボール大会ではメンバーが企画運営しママさんチームに加わる特別ルールで競技を行い競い合いながらもバレーボールを競技する仲間として連帯感を高めております。

新川地区保育施設では年長児を対象に交流会を開催し、ビーチボールや軽運動をしながら触れ合い、選手との交流をきっかけにスポーツに親しみ関心を持ってもらう意味でも大きく貢献しています。

V・チャレンジリーグIでは北陸新幹線開業に伴い全国各地の遠征先で黒部・宇奈月温泉の観光PRを実施しました、ホームゲームでは保育園児による演舞をイベントとして盛り上げ、地域とチームが一体となる活気のある大会となるよう工夫しております。

KUROBEアクアフェアリーズの地域貢献活動は、創部当初から現在に至るまで継続的に取り組まれており、幅広い年齢層の市民・県民と絆を深めています。また地元の応援・支援に応えるべくV・チャレンジマッチ（入れ替え戦）を制しVリーグのトップリーグである『V・プレミアリーグ』昇格を目標に日々切磋琢磨し、夢の実現に向けこれからも進化・発展し続けます。これからも「黒部の妖精たち」が地域に愛され更に活動の輪を広げられるよう努力して参ります。





特別栄誉賞

ボッチャ日本代表

藤井 友里子 選手
(北陸銀行)

藤井友里子選手は魚津市出身。生後間もない頃に患った脳性麻痺で手足に重い障害を抱えていますが、2000年に障害者スポーツ交流会で「ボッチャ」を知ってからは「自分にもできるスポーツがあった」と競技にのめり込むようになったそうです。

2年後の2002年に日本ボッチャ選手権初出場。翌2003年の大会では早くも初優勝しました。2005年の途中からはBC1というクラスに転向し、日本ボッチャ選手権で同クラス初優勝。このクラスでは8回優勝されています。

パラリンピックは、2012年のロンドン大会が初出場。2回目となる2016年9月のリオデジャネイロ・パラリンピックではBC2との混合団体（脳性まひ）と個人戦に出場し、団体で銀メダルに輝きました。ボッチャとしては初のメダル獲得で、富山県勢としては22年ぶり5人目のメダリスト、団体では初のメダル獲得となります。

去年11月4日、「藤井選手の活躍は障害をもつ人たちに夢や希望を与えてくれた」として石井富山県知事より「富山県民栄誉賞」が贈られています。

11月27日に開催された日本ボッチャ選手権で見事、4連覇を果たした藤井選手は、「今回は、若い女性が勝ち上がってきた。互いに高めあいながら、東京は私が出たい」と2020年、東京パラリンピックの出場に強い意欲を示しています。



写真協力：北日本新聞社、共同通信社



特別賞

作詞・作曲家、ピアニスト 前畑 匡 伸 氏

前畑さんは、福島県郡山市で音楽活動家として活躍しておられましたが、2011年の東日本大震災により被災され、直後から奥様の姉の嫁ぎ先である魚津市に移住し定住されました。

被災の逆光にもめげず、直に得意とする音楽活動を始められ、先ずは新川地区に馴染もうと各地域を廻り、その風景を詩に読み、曲を付けて数多くご披露されています。

特に、ホタルイカのワルツや黒部讃歌、福舞入善歌は、地域に密着した曲であり、さらに自然環境をイメージした素晴らしい作詞作曲を50曲以上も制作し、好評を得ています。

また、癒しの音を奏で鍵盤に風景を描くピアニストとして、公演やコンサート活動を毎月3回以上も各施設へ出向き、ボランティア演奏活動を行っておられます。そのほかシャンソン教室を主宰、歌唱指導や音楽プロデュース等 新川地域に根差した活動をしています。

昨年、魚津市の小学校統合で、魚津市立清流小学校校歌の作曲を市より依頼され、みごとに完成されました。児童たちも新学校の誇りと未来に向けて合唱しています。

音楽を通して、新川地域を楽しく魅力ある地域づくりに今後益々の活動を期待いたします。



2011.4 東北大震災チャリティーコンサート



2013.3 若者参加の東北大震災を考える
パネルディスカッション



2012.3 春のシャンソンショー

地域社会賞

てんじん地域振興会

マドンナたちの甲子園として親しまれている全国大学女子野球選手権大会は、昨年、30回の記念大会を迎えました。

この大会を蔭で支えているのが「てんじん地域振興会（会長：関口 斎さん）」です。天神地域振興会では、地元で開催される大会を盛り上げようと、2006年の20回大会から、天神山球場で、選手や来場者に、焼きそばや、地元で採れた新鮮な野菜や果物を無料で振舞っています。

よく冷えたキュウリや、スイカ、ブドウ、梨など種類も豊富で、選手たちから大変喜ばれており、中には、近年見る事が少なくなったマクワ瓜などは「初めて食べる」と大賑わいでした。また、寄せ書き用のメッセージボードも設置したり、選手の写真をプレゼントするなど、選手たちの思い出作りにも一役買っています。

昨年の30回大会を記念し、今まで残してあった寄せ書きを新たにボードに貼り直し、訪れた方々に懐かしのメッセージボードとして見ていただこうと天神山球場に展示し、大変喜ばれました。

他にも、多くの人に大会を見に来ていただこうと、うおづ祭りの蝶六街流しでPR用映像を映写しアイデア賞をもらい話題となりました。

“もてなしの心”で全国大学女子野球選手権大会を支え、地域に貢献してきたてんじん地域振興会の活動に敬意を表します。



地域社会賞

あさひふるさと体験推進協議会 上澤 聖子 さん

福島県会津出身で、移住者でもある上澤聖子さん。富山県の職員、農業の経験を経て現在のあさひふるさと体験推進協議会の職員になりました。現在は体験型教育旅行を中心に、観光交流事業、移住定住促進事業を行っておられます。

修学旅行などを通して県外の人に漁業や民泊を体験してもらい、朝日町のファンを増やして行くことに現在も邁進しておられ、夏には昭和女子大学と連携してヒスイ海岸にて海の家をオープンをされ大変喜ばれております。また、朝日町で行われる映画のロケション等のコーディネートも積極的に行い、更に地域貢献されておられます。



奨励賞

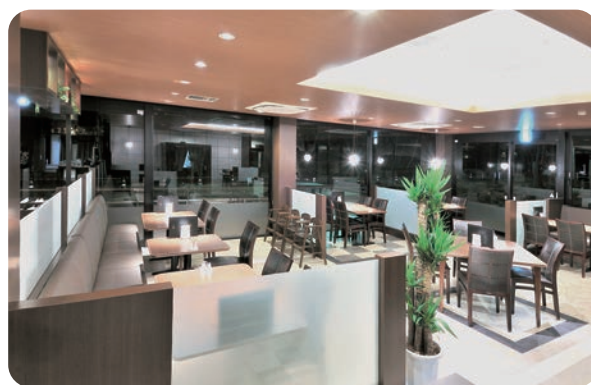
北陸自動車道有磯海SA下り線

カフェ&レストラン有磯海

平成28年1月に開催された高速道路No.1グルメを決める「SA・PAメニューコンテスト全国大会」で北陸自動車道有磯海SA下り線が、見事、グランプリ（日本一）を獲得しました。

このコンテストは、地域食材を用いたメニュー開発を通じ、地産地消・地域活性化の促進の一助に寄与することを目的に、NEXCO（東日本・中日本・西日本）創立10周年の節目に、三社共同で初めて開催したもので、全国から158点が出品し、各エリアの予選を勝ち抜いた計12点が日本一を競いました。

「料理の鉄人」でもおなじみの陳建一氏を審査委員長とする6名の厳正な審査の結果、有磯海SA下り線の『越中とやま 食の玉手箱‘旅のしおりに想いを込めて’』がNo.1に選ばれました。オープンで焼いたステーキや黒部名水ポークの煮込み、甘エビやブリを使ったカルパッチョ、かぶらずし、五箇山豆腐など、富山らしさをふんだんに盛り込んだメニューです。12月までレストランで提供したところ、反響が大きく、グランプリ獲得メニューを食べに、わざわざ高速に乗り、大阪や新潟など県外からも食べにくる人がいたそうです。また、一般道からの利用客も多く、外から乗り入れられる駐車場も、これまでの13台から23台にスペースを広げました。料理長の畑謙太郎さん（入善在住）は、「漁協、JAにも協力をいただきながら、地元の美味しい食材をどんどん発信していき、これからも地域を盛り上げていきたい」と意気込んでいます。地域の魅力を伝える新川地区唯一のサービスエリアとして、今後も更なる発展を期待しています。





奨励賞

女優、あいのトキめき大使
内田 もも香 さん

宝塚歌劇団宙組出身。宝塚退団後テレビ、舞台などで活躍されておられます。

東日本大震災を機に2012年末より朝日町にUターンされ、主に地元や県内一円に女優、タレント、ラジオパーソナリティなどの活躍の傍ら、実家でもある朝日町泊駅近くの「Studio & Gallery Cafeふかみ」を経営。朝日町の名所のひとつになっています。

また、2016年3月に“あいのトキめき大使”に就任にし、様々な活動を通して朝日町のPRや情報発信をしておられ今後の活躍にご期待いたします。





青少年育成賞

中瀬 智哉 さん (入善町立入善小学校5年)

2006年1月生まれ、11歳。4歳より母の指導のもとでピアノを始め、6歳より金子勝子氏に師事。10歳より鈴木弘尚氏の各氏に師事。

2012年大阪国際音楽コンクール ピアノ部門Age-E1においてエスポワール賞。

2013年全日本ジュニアクラシック音楽コンクールにおいて小学生の部第2位。

2014年ピティナ・ピアノコンペティション全国決勝大会においてB級銅賞。

2015年ピティナ・ピアノコンペティション全国決勝大会においてC級金賞。

2015年ショパン国際ピアノコンクール in ASIAアジア大会において小学3・4年生部門金賞およびソリスト賞。

2016年ショパン国際ピアノコンクール in ASIAアジア大会においてコンチェルトAB部門（高校生以下の部）金賞およびコンチェルト賞。

昨年は、コンチェルト部門でポーランドの「プリマ・ヴィスタ弦楽四重奏団」との共演。2年連続最高賞の金賞及びコンチェルト賞を受賞。

富山県の県庁で行われた学習活動等全国大会成績優秀者報告会で、知事に2年連続受賞報告させていただいている。

将来、ショパンの故郷であるポーランドの首都ワルシャワで5年に1回開催される、（16歳以上30歳以下に出場資格がある）ショパン国際ピアノコンクールで優勝し、演奏を通して世界中の皆さんに喜んでもらえるようなピアニストを目指している。





青少年育成賞

村田 祐 樹 さん
(富山県立氷見高校3年生)

村田祐樹さん（18歳）は、県立氷見高校3年生です。

自転車競技に打ち込むために黒部市の親元を離れ、氷見高校に進学。

昨年3月、熊本県で開催された全国高等学校選抜自転車競技大会では「3kmインディヴィデュアル・パーシュート」で3位入賞。7月、鳥取県で開催された全国高等学校総合体育大会（インターハイ）では同種目で優勝を果たした。10月の岩手国体では、「チーム・パーシュート」のメンバーとして4位入賞に貢献した。

高校卒業後は大学に進学し競技を続ける。科学的なトレーニング、肉体の可能性を追及し、更に進化していきたいと意気込みを語ってくれた。

2020年、東京オリンピックは夢ではなく、目標として見えてきた。

今後、益々の活躍をご期待いたします。

